

PEACE GOURD



9条の会・養老
会報、第9号
2017年9月30日
(部内資料)

”ピース・ガード” 「平和の瓢箪」

私たちは今、歴史の岐路に立っています

2017年9月26日
世話人 一同

9条を守り戦争をしない日本を続けるのか、安倍9条加憲で戦争できる国になるのか

今年5月3日、安倍首相は憲法9条に自衛隊を明記するという改憲案を打ち出し、今年中に国会に自民党の成案を示して、2020年には施行するという期限まで切ってきました。

2年前に強行採決で成立させた安保法で、日本が攻められなくても米軍と一緒に戦争できるようになった自衛隊を9条に書き加えれば、戦争をしないという平和憲法9条は、戦争をするという9条に、オセロゲームのようにひっくり返されてしまいます。

これまではお試し改憲とかいろいろ言って来ましたが、いよいよ憲法9条を変えて、戦争のできる国にするという本音をあらわにしてきました。

共謀罪の強行や、森友、加計の国政私物化疑惑での内閣支持率の急落、東京都議選での大敗で改憲を少し先延ばししたかのように装っていましたが、9月25日の記者会見で、9月28日の臨時国会冒頭での解散を表明しました。10月22日が投票日となります。

内閣改造で支持率が少し回復し、民進党は党首交代後のゴタゴタで、野党の選挙協力も進んでいない。今このまま2/3の勢力があるからと改憲を發議しても、国会が開かれれば益々支持率が低下し、来年の任期一杯の選挙では大敗して2020年までの政権の維持もむづかしいかもしれない、それよりも国会前の今思い切って解散して選挙に勝てれば、森も加計もリセットして、4年間の任期中には絶対に改憲ができるという読みで勝負に出てきたようです。

改憲勢力に絶対に多数を許してはなりません。市民団体や野党が協力して自民党の良心派や保守層、宗教団体なども巻き込んだかつてない規模の共同で安倍改憲を阻む「全国市民アクション」が9条の会も参加して作られました。有権者の過半数を目指す改憲阻止3000万署名と地域、国会での運動を連携して盛り上げ、必ず改憲發議を阻止するという一大組織です。私たち地域の9条の会も共にできる限りの行動で立ち上がりましょう。



♪ ♪ 戦後は続くよ どこまでも ♪ ♪

憲法九条を守りたい

私は、戦後生まれで、実際には戦争を体験したことはありません。ですが、父は戦場に行き銃を持ち、他国民との戦いに参戦しました。



ここからは、母から聞いた話になりますが、父は、満州事変、太平洋戦争と2つの戦争に駆り出されました。でも本人は、兵隊になりたくなくて、度の強い眼鏡をかけ、兵役を逃れようとしたようです。それでも、体格も良く目も悪くないとして合格。戦場に行くこととなりました。父が戦争に行く前の職業は板前でした。そしてお酒も1滴も飲めない人だったと聞いています。

終戦をむかえ、戦死を免れ帰国、そして私が生まれ、その3年後に弟が生まれました。とても優しい父であったと記憶しています。でもその反面酒の飲めなかった父が、酒を浴びるように飲むようになっていたといえます。板前の仕事も無く、日雇い人夫の仕事で生活を支えるようになりました。でも、1日稼いだ金の殆んどは飲み代になり、細々と母の内職で食いつなぐ日々であったようです。そんな暮らしがたたったのでしょう。ある日父は、酒を飲んだ後に、銭湯に行き、帰りは、戸板にのり帰宅（脳内出血）翌日に亡くなりました。そして母の肩に、私と、弟の生活がのしかかりました。

弟は、6歳、私は、10歳の時でした。原因は、父の弱さかもしれませんが、戦争という化け物が、父を変えてしまったと、私には思えるのです。戦争とは、大量殺人にほかならないのですから。父の様な優しい人達、いいえ正常な人なら、人殺しなどしたいと、思うはず無い。戦場で酒を飲まずにはいられなかったのだと思うのです。殺人が日常的に行われる場、そんな非人道的な事が起こって欲しくありません。

今、九条を変えて戦争の出来る国づくりが、急ピッチで進められています。考えるだけで恐ろしくなります。戦争で潤うのは死の商人（軍需産業）ばかり。私達国民は、被害者でしかなく、家族を失い、家財を失い、食べる物さえ無い世の中。私達戦後世代、子や孫を戦場に行かせたくありません。なんとしても、九条を守り、明るい未来を作らなければと思います。美しい自然と豊かな大地、そして平和を守る。それは、誰かではなく、私達皆の務めではと痛感しています。

中野登美子（69）



